

- ① かつての海岸段丘樹林の再生をめざす緑化ネットワーク
- ② 屋久島の自然素材(木・石)を活かした住まい・まち
- ③ 生ゴミの全量コンポスト化と、一坪菜園の展開
- ④ 近自然型で再生する河沿いの親水緑地保全区域
- ⑤ 適度な幅員と曲線型で歩車が共存する団地内道路(ボンエルフ)
- ⑥ 湧き水、丘、お花畑、パーゴラで彩られた中央広場
- ⑦ 海風と幹線交通騒音を和らげる緩衝樹林帯
- ⑧ 滝が落ちる4mの石積み2段擁壁
- ⑨ 原地形になじんだ安全で美しい造成、まちなみの創出
- ⑩ 住人による自主的な育成管理がしやすい、したくなる団地のしつらえ
- ⑪ 台風・豪雨・塩害・白蟻に耐え、長く使える基盤整備と家のづくり
- ⑫ 既存住宅団地を結ぶ辻広場
- ⑬ 石垣・生け垣と平屋切り妻屋根が織りなす家なみ・まちなみ



Facility name
鹿児島県屋久島
環境共生住宅
yakushima ecohouse



岩村アトリエ・鹿児島県建築設計監理事業共同組合設計業務企業体

Facility name

鹿児島県屋久島

環境共生住宅

yakusima ecohouse

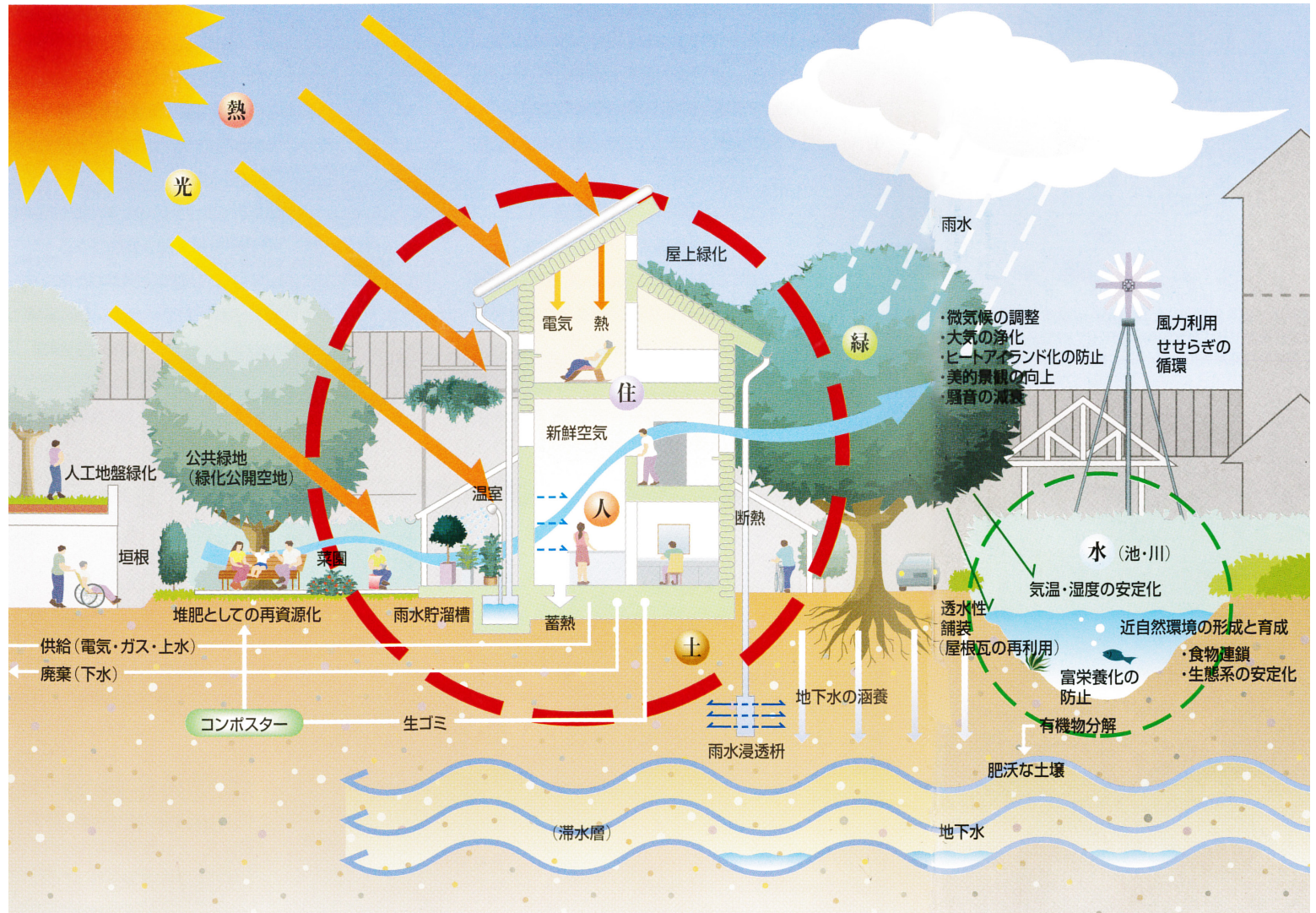
のイメージ

■ 循環

ヒトや動植物の生活圏は、通常大気と大地が接する空間に限られ、しかも絶えず変化をするさまざまな外部からの因子の影響を受けています。マクロな視点から見れば、この構造は都市でも農山村・漁村でも同じで、生態環境のかかわりは「循環」が基本です、相互に有機的に関連し合う環境（風・水・土・緑など）、そしてヒトにより、このような私たちの生活圏における「環境共生」は構成されて居ます。

■ 図形について

環境共生住宅団地の計画、まずこうしたたくみを念頭において、敷地とその周辺地域の環境要素の特性を、発見的に掘り起こすことから始まります。そして、地域と敷地内の自然環境特性と、この場所に住み続けてきた人々のライフスタイルや居住者などの人文環境特性をベースにして事業構造の与条件を織り込み、計画のコンセプトをつむぎます。右のコンセプト・シナリオはその全体像を一つの物語として描いたものの抜粋です。



環境共生住宅イメージ